

# 性能評価申請書

一般財団法人 ボーケン品質評価機構  
理事長 吉田 泰教 殿

建築基準法第68条の25第5項の規定による性能評価を受けたいので、申請します。

申請に当り一般財団法人ボーケン品質評価機構の「性能評価業務約款」を遵守します。

なお、この申請書及び提出する資料の記載事項は、事実と相違ありません。また、当該申請の構造方法等は、過去に同一評価項目の内容による試験により不合格となったものではありません。

〇〇〇〇年〇〇月〇〇日

申請者	性能評価書宛名	ふりがな	かぶしきがいしゃ ○×こうぎょう	申請責任者印
		会社名	株式会社 ○×工業	
		責任者名	役職名 代表取締役 氏名 紡検 太郎	
		所在地	〒123-4567 〇〇県△△市□□区 ○-△-× □□ビル※階	
	宛名	ふりがな	かぶしきがいしゃ △□こうぎょう	申請責任者印
		会社名	株式会社 △□工業	
		責任者名	役職名 代表取締役 氏名 紡検 太郎	
		所在地	〒123-4567 〇〇県△△市□□区 ○-△-× □□ビル※階	
連絡担当者	所属部署名	〇〇部△△課	氏名 紡検 次郎 (ふりがな ぼうけん じろう)	
	所属先住所	〒987-6543 TEL XXX(XXX)XXXX FAX ※※※(※※※)※※※※		
		〇〇県△△市□□区 ☆☆-◎◎	e-mail XXXX@○×.com	
		(※この欄に記入の部署宛に請求書を送付します。請求先が異なる場合は請求先欄に宛名及び送付先を記入して下さい。)		
請求先	送付先:	〒		
	宛先:			
性能評価に係る事項	根拠法令	[基準法・ <b>施行令</b> ] 第 20条の7 第4項の認定に係る性能評価		
	評価項目内容	項目名:ホルムアルデヒド発散建築材料(平成14年国土交通省告示第1113号第1号ロ) 部位:床		
	申請仕様の名称	名称: <b>「表面」樹脂塗装/天然木単板張/MDFフローリング</b>		
	備考	商品名:	ボーケンフロア	
		添付図書:	<input type="checkbox"/> 申請仕様概要書 <input type="checkbox"/> 構造説明図 <input type="checkbox"/> 施工図 <input type="checkbox"/> その他( )	
	業務期日:	<input type="checkbox"/> 変更する(業務期日:平成 年 月 日(性能評価業務約款第2条第2項適用))		
試験に係る事項	事前打合	有・無 当機構担当者( )		
	試験体	種類(数):	数量:18枚	
		寸法及び質量:	50mm×150mm×8mm	試験体搬入予定日 ××××/○/□□
	試験項目	試験方法(条件等)		
		業務方法手順書による	ガラスデシケーター法	
備考	<input type="checkbox"/> 試験体構成図 <input type="checkbox"/> 材料構成表 <input type="checkbox"/> その他			

(一財) ボーケン品質評価機構記入欄

申請に関するお問い合わせは、  
この番号でお願いします。

所 長	課 長	受付担当者	試験担当者	発行責任者

手数料額
円

承諾番号

# 材料説明及び構成材料の仕様書

文章は「MS P 明朝」、数字は半角で記載

## 1. 形状・寸法等：

(板状材料の場合)

項目	仕様等
形状	平板
表面の形状	平滑
厚さ(mm)	8(±0.5)～15(±0.5)
密度(kg/m <sup>3</sup> )	650(±50)～700(±70)
質量(kg/m <sup>2</sup> )	(±)～(±)

(塗料・接着剤の場合)

項目	仕様等
形状	液状
塗布量(g/m <sup>2</sup> )	80(±10)～90(±10)
密度(kg/m <sup>3</sup> )	1200(±60)～1300(±60)

※製品に範囲がある場合は「～」を、製造公差がある場合は(±)を記載

2. 材料構成:

(合板・単板積層材(LVL)の場合)

項目	仕様等										
<p>(1)表面材 (単板、突き板など) (*1 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド発散建築材料に該当しない材料の場合)</p>	<p>種類: *1 材料名: 天然木単板 又は天然木突き板 樹種: ポプラ、オーク 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 密度(kg/m<sup>3</sup>): 400(±50)~700(±50) ※接着剤が含まれていない天然木に限る</p>										
<p>(2)接着剤 (ホルムアルデヒドを含有しない接着剤の場合)</p>	<p>種類: *3 材料名: アクリル樹脂系接着剤 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 塗布量(g/m<sup>2</sup>): 80(±10)~90(±10) (固形量)又は(処理時(液体時))のどちらかを選択  MSDSによりホルムアルデヒドを含有しないことが確認できる場合、接着剤の組成記載を省略することができる。 (日本接着剤工業会 ノンホルムアルデヒド製品登録がなされている場合はその登録番号も記載)</p>										
<p>(3)基材 (合板・単板積層材(LVL)の場合)</p>	<p>材料名: 合板 厚さ(mm): 7(±0.7)~14(±1.4) 密度(kg/m<sup>3</sup>): 650(±30)~750(±30) 単板樹種: パイン、モミ、ナラ (層毎に樹種が異なる場合は、各層毎に樹種を記載) 積層数: 7、14層 (厚さ毎に積層数が異なる場合は、積層数毎に厚さの範囲を記載) 単板厚さ(mm): 1(±0.1) (層毎に単板厚さが異なる場合は、層毎に単板厚さを記載)  接着剤種類: フェノール樹脂系接着剤 種類: 1層当たりの接着剤塗布量(g/m<sup>2</sup>): 80(±10)~90(±10) (固形量)又は(処理時(液体時))のどちらかを選択 接着剤組成(質量%):  <table style="margin-left: 40px;"> <tr> <td>フェノール</td> <td>35(±3)</td> </tr> <tr> <td>ホルムアルデヒド</td> <td>20(±2)</td> </tr> <tr> <td>水酸化ナトリウム</td> <td>5(±1)</td> </tr> <tr> <td>水</td> <td>40(±4)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>100</td> </tr> </table>  (固形量又は液体(製造時))のどちらかを選択</p>	フェノール	35(±3)	ホルムアルデヒド	20(±2)	水酸化ナトリウム	5(±1)	水	40(±4)	合計	100
フェノール	35(±3)										
ホルムアルデヒド	20(±2)										
水酸化ナトリウム	5(±1)										
水	40(±4)										
合計	100										

(4) ホルムアルデヒド低減化処理剤(キャッチャー剤)

材料名:ホルムアルデヒド低減化処理剤

塗布量(g/m<sup>2</sup>):130(±13)~150(±15)

(固形量)又は(処理時(液体時))のどちらかを選択

組成(質量%):

アジピン酸ジヒドラジド 10(±1)~20(±2)

尿素 10(±1)~20(±2)

水 60(±6)~80(±8)

合計 100

(固形量又は液体(製造時))のどちらかを選択

処理方法:裏面にコーティング後、風乾

その他の提出資料

- ・名称・型番
- ・反応メカニズム
- ・持続性計算値
- ・塗布量、塗布方法、塗布工程の写真
- ・3ヶ月以上の持続性実験結果(処理有無の比較データ)
- ・製品安全データシート

(集成材の場合)

項目	仕様等
(1)表面材 (単板、突き板など)  (*1 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド発散建築材料に該当しない材料の場合)	種類: *1 材料名: 天然木単板 又は天然木突き板 樹種: ポプラ、オーク 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 密度(kg/m <sup>3</sup> ): 400(±50)~700(±50) ※接着剤が含まれていない天然木に限る
(2)接着剤 (ホルムアルデヒドを含有する接着剤の場合)	材料名: フェノール樹脂系接着剤 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 塗布量(g/m <sup>2</sup> ): 80(±10)~90(±10) (固形量)又は(処理時(液体時))のどちらかを選択  組成の記載方法 (すべての化学物質を物質名で記載する) 【記載方法1】(樹脂化した組成を記載する方法) 組成(質量%) (固形量又は液体(製造時))のどちらかを選択 フェノール樹脂 100 ホルムアルデヒド <0.1 合計 100  【記載方法2】(樹脂化させる前の組成を記載する方法) 組成(質量%) (固形量又は液体(製造時))のどちらかを選択 フェノール 35(±3) ホルムアルデヒド 20(±2) 水酸化ナトリウム 5(±1) 水 40(±4) 合計 100  【記載方法3】(配合重量比を記載する方法) 組成(配合比)(g) フェノール 35(±3) ホルムアルデヒド 20(±2) 水酸化ナトリウム 5(±1) 水 40(±4)

<p>(3)基材 (集成材の場合)</p>	<p>材料名:集成材  厚さ(mm):7(±0.4)~14(±0.4)  密度(kg/m<sup>3</sup>):650(±30)~750(±30)  単板樹種:パイン、モミ、ナラ  積層数:7層  ラミナ厚さ(mm):1(±0.1)  ラミナ幅(mm):10(±1)~20(±2)  縦継ぎ間隔(mm):80(±10)~90(±10)</p> <p>接着剤種類:  種類:*3  幅はぎ用:アクリル樹脂系接着剤  積層用:アクリル樹脂系接着剤  縦継ぎ用:アクリル樹脂系接着剤</p> <p>塗布量(g/m<sup>2</sup>):  幅はぎ部:80(±10)~90(±10)  積層部:80(±10)~90(±10)  縦継ぎ部:80(±10)~90(±10)  (固形量)又は(処理時(液体時))のどちらかを選択</p> <p>MSDSによりホルムアルデヒドを含有しないことが確認できる場合、接着剤の組成記載を省略することができる。  (日本接着剤工業会 ノンホルムアルデヒド製品登録がなされている場合はその登録番号も記載)</p>
---------------------------	---

(MDF、パーティクルボード、構造用パネル、その他の木質系材料の場合)

項目	仕様等
<p>(1)表面材 (〇〇樹脂含浸紙)  (*1 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド発散建築材料に該当しない材料の場合)</p>	<p>種類: *1 材料名: <b>ウレタン樹脂含浸紙</b> 厚さ(mm): <b>1(±0.1)~2(±0.2)</b> 質量(g/m<sup>2</sup>): <b>130(±13)~150(±15)</b> ※質量(g/m<sup>2</sup>)は坪量(g/m<sup>2</sup>)と表記することもできる。 基材との接着方法: <b>熱圧着</b></p>
<p>(2)基材 (MDF、パーティクルボード、構造用パネル、その他の木質系材料の場合)</p>	<p>材料名: <b>パーティクルボード</b> 厚さ(mm): <b>7(±0.4)~14(±0.4)</b> 密度(kg/m<sup>3</sup>): <b>650(±30)~750(±30)</b> 材料構成及び比率(質量%):  <b>木材チップ又は木材繊維 70(±7)</b>  <b>フェノール樹脂系接着剤 30(±3)</b>                      合計 100                      木材チップ又は木材繊維の樹種: <b>パイン、モミ、ナラ</b></p> <p>※パーティクルボード及び MDF の場合は、使用する木材について天然材か加工品等の再利用材か、またその比率を記載。加工品等の再利用材については、何を再利用した材料であるか等、別途確認します(材料の特定が必要)</p> <p>単位体積当たりの接着剤量(kg/m<sup>3</sup>): <b>195(±9)~225(±9)</b>                      (単位体積当たりの接着剤量(kg/m<sup>3</sup>) =                      密度(kg/m<sup>3</sup>) × 接着剤量(質量%)/100)</p> <p>接着剤組成(質量%):  <b>フェノール 35(±3)</b>  <b>ホルムアルデヒド 20(±2)</b>  <b>水酸化ナトリウム 5(±1)</b>  <b>水 40(±4)</b>                      合計 100                      (固形量又は液体(製造時)) のどちらかを選択</p>

(保温材・緩衝材・断熱材の場合)

項目	仕様等						
(1)基材 (保温材・緩衝材・断熱材の場合)	<p>材料名:断熱材 厚さ(mm):7(±0.4)~14(±0.4) 密度(kg/m<sup>3</sup>):650(±30)~750(±30) 材料構成及び比率(質量%):</p> <table><tr><td>ガラス繊維</td><td>90(±9)</td></tr><tr><td>ポリエステル樹脂系接着剤</td><td>10(±1)</td></tr><tr><td>合計</td><td>100</td></tr></table> <p>接着剤種類:種類*3</p> <p>単位体積当たりの接着剤量(kg/m<sup>3</sup>): 単位体積当たりの接着剤量(kg/m<sup>3</sup>)=65(±3)~75(±3) (単位体積当たりの接着剤量(kg/m<sup>3</sup>)= 密度(kg/m<sup>3</sup>)×接着剤量(質量%)/100)</p> <p>MSDSによりホルムアルデヒドを含有しないことが確認できる場合、接着剤の組成記載を省略することができる。 (日本接着剤工業会 ノンホルムアルデヒド製品登録がなされている場合はその登録番号も記載)</p>	ガラス繊維	90(±9)	ポリエステル樹脂系接着剤	10(±1)	合計	100
ガラス繊維	90(±9)						
ポリエステル樹脂系接着剤	10(±1)						
合計	100						

(壁紙の場合)

項目	仕様等
(1)表面材 (表面塗料、印刷インクなど) (*2 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド発散建築材料に該当しない材料で、塗料においては、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド系防腐剤のいずれも使用していないもの)	種類: *2 材料名: アクリル樹脂系塗料 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 塗布量(g/m <sup>2</sup> ): 80(±10)~90(±10) (固形量)又は(処理時(液体時))のどちらかを選択
(2)主素材 (プラスチックフィルム・紙など) (*1 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド発散建築材料に該当しない材料の場合)	種類: *1 材料名: 普通紙(木材パルプ系セルロース系繊維) 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 質量(g/m <sup>2</sup> ): 130(±13)~150(±15) ※質量(g/m <sup>2</sup> )は坪量(g/m <sup>2</sup> )と表記することもできる

表中括弧内の数字は製造時公差を示す。

\*1 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド発散建築材料に該当しない材料

\*2 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド発散建築材料に該当しない材料で、塗料においては、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド系防腐剤のいずれも使用していないもの

\*3 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド発散建築材料に該当しない材料で、接着剤においては、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド系防腐剤、メチロール基含有モノマー及びロンガリット系触媒のいずれも使用していないもの

※製品に範囲がある場合は「~」を、製造公差がある場合は(± )を記載してください。

※最小値、最大値において、公差値が同一の場合、「最小値~最大値(±公差)」とすることができる。また最小値・最大値の範囲が存在しない場合は「特定値(±公差)」とすることができます。

※個別製品の評価ではありませんので、商品名の記載はできません。品目名は一般名称にて記載してください。

※申請品の構成材料毎に、内容が特定できるよう記載してください。

※材料構成のうち、次の材料を用いている場合には、その材料名及び使用量を必ず記載してください

- ・ユリア樹脂
- ・メラミン樹脂系の材料
- ・ユリア・メラミン共縮合樹脂系の材料
- ・フェノール樹脂系の材料
- ・レゾルシノール樹脂系の材料
- ・その他ホルムアルデヒドを発散する恐れのある材料

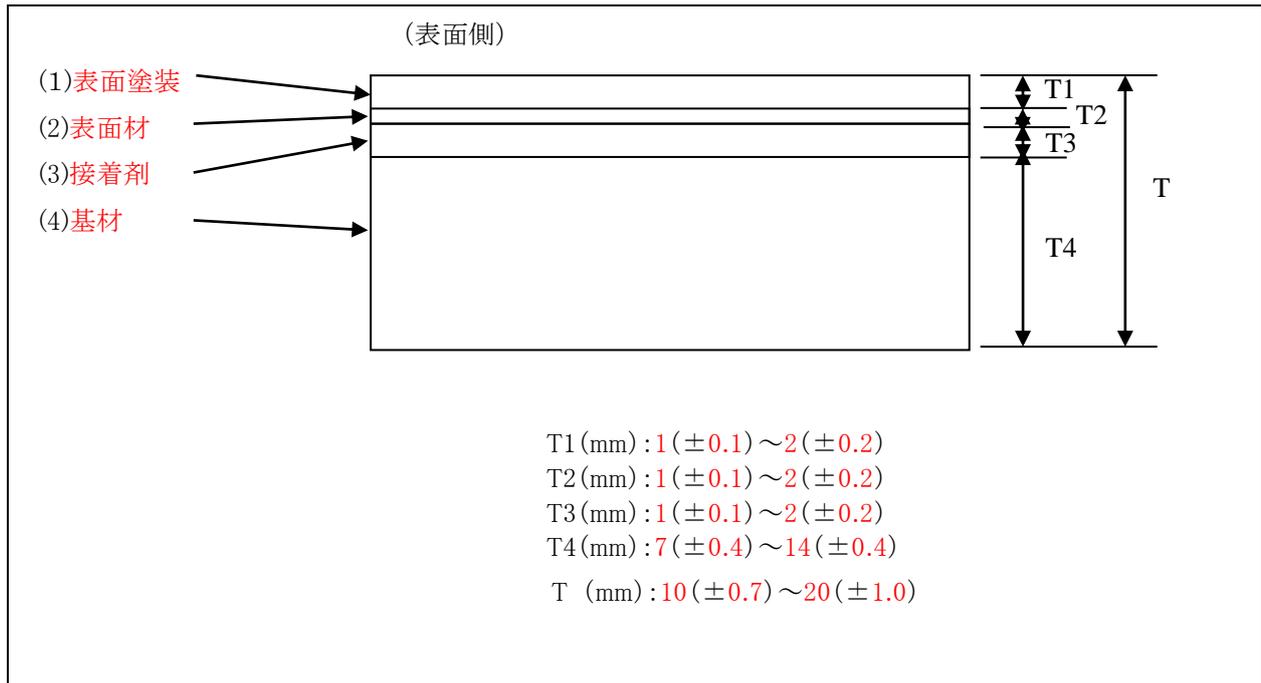
※キャッチャー剤・ロンガリット触媒について

材料製造時にキャッチャー剤・ロンガリット触媒を用いる場合は、以下の資料を提出してください。

- ・組成
- ・使用量
- ・安定度(性能保持期間)及びそれを保証するデータ

### 3. 断面図:

断面を図に示してください。



※断面図により、断面構成と厚さの関係がわかるように図示してください。

※図面は、鮮明なものとしてください。

※表面側がわかるよう図示してください。

# 申請仕様範囲の説明資料

## 1. 形状・寸法等

(板状材料の場合)

項目	試験体	申請仕様	選定理由
形状	平板	平板	申請仕様と同じ
表面の形状	平滑	平滑	申請仕様と同じ
厚さ(mm)	15	8(±0.5)～15(±0.5)	最大厚さを選択
密度(kg/m <sup>3</sup> )	700	650(±50)～700(±70)	申請仕様と同じ
質量(kg/m <sup>2</sup> )		(± )～ (± )	

(塗料・接着剤等の場合)

項目	試験体	申請仕様	選定理由
形状	液状	液状	申請仕様と同じ
塗布量(g/m <sup>2</sup> )	90	80(±10)～90(±10)	申請仕様と同じ
密度(kg/m <sup>3</sup> )	1200	1200(±60)～1300(±60)	申請仕様と同じ

2. 材料構成

項目	試験体	申請仕様	選定理由
(1)表面塗装 (*2 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド <sup>*</sup> 発散建築材料に該当しない材料で、塗料においては、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド <sup>*</sup> 系防腐剤のいずれも使用していないもの)	種類: *2 材料名: アクリル樹脂系塗料 厚さ(mm): 2 塗布量(g/m <sup>2</sup> ): 90 (処理時(液体時))	種類: *2 材料名: アクリル樹脂系塗料 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 塗布量(g/m <sup>2</sup> ): 80(±10)~90(±10) (処理時(液体時))	最大塗布量を選択
(2)表面材 (*1 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド <sup>*</sup> 発散建築材料に該当しない材料の場合) ※接着剤が含まれていない天然木に限る	種類: *1 材料名: 天然木単板 樹種: ポプラ 厚さ(mm): 1 密度(kg/m <sup>3</sup> ): 400	種類: *1 材料名: 天然木単板 樹種: ポプラ、オーク 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 密度(kg/m <sup>3</sup> ): 400(±50)~700(±50)	厚さ最小で、最も流通量の多い樹種を選択
(3)接着剤 (ホルムアルデヒドを含有する接着剤の場合)	材料名: フェノール樹脂系接着剤 厚さ(mm): 2 塗布量(g/m <sup>2</sup> ): 90 (処理時(液体時)) 組成(質量%): (液体(製造時)) フェノール樹脂 100 ホルムアルデヒド <0.1 合計 100	材料名: フェノール樹脂系接着剤 厚さ(mm): 1(±0.1)~2(±0.2) 塗布量(g/m <sup>2</sup> ): 80(±10)~90(±10) (処理時(液体時)) 組成(質量%): (液体(製造時)) フェノール樹脂 100 ホルムアルデヒド <0.1 合計 100	最大塗布量を選択
(4)基材	材料名: パーティクルボード 厚さ(mm): 14 密度(kg/m <sup>3</sup> ): 750 材料構成及び比率(質量%): 木材チップ 70 フェノール樹脂系接着剤 30 合計 100 木材チップの樹種: パイン、モミ、ナラ 単位体積当たりの接着剤量(kg/m <sup>3</sup> ): 225 (単位体積当たりの接着剤量(kg/m <sup>3</sup> ) = 密度(kg/m <sup>3</sup> ) × 接着剤量(質量%) / 100) 接着剤組成(質量%): フェノール 35 ホルムアルデヒド 20 水酸化ナトリウム 5 水 40 合計 100 (液体(製造時))	材料名: パーティクルボード 厚さ(mm): 7(±0.4)~14(±0.4) 密度(kg/m <sup>3</sup> ): 650(±30)~750(±30) 材料構成及び比率(質量%): 木材チップ又は木材繊維 70(±7) フェノール樹脂系接着剤 30(±3) 合計 100 木材チップの樹種: パイン、モミ、ナラ 単位体積当たりの接着剤量(kg/m <sup>3</sup> ): 195(±9)~225(±9) (単位体積当たりの接着剤量(kg/m <sup>3</sup> ) = 密度(kg/m <sup>3</sup> ) × 接着剤量(質量%) / 100) 接着剤組成(質量%): フェノール 35(±3) ホルムアルデヒド 20(±2) 水酸化ナトリウム 5(±1) 水 40(±4) 合計 100 (液体(製造時))	最大厚さを選択

表中括弧内の数字は製造時公差を示す。

- \*1 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド<sup>\*</sup>発散建築材料に該当しない材料
- \*2 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド<sup>\*</sup>発散建築材料に該当しない材料で、塗料においては、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド<sup>\*</sup>系防腐剤のいずれも使用していないもの
- \*3 第1種、第2種及び第3種ホルムアルデヒド<sup>\*</sup>発散建築材料に該当しない材料で、接着剤においては、ユリア樹脂、メラミン樹脂、フェノール樹脂、レゾルシノール樹脂、ホルムアルデヒド<sup>\*</sup>系防腐剤、メチロール基含有モノマー及びロンガリット系触媒のいずれも使用していないもの

# 施工方法

## 施工手順

以下の順に当該仕様の施工方法を簡潔に記載してください。

(例)

### (1) 下 地

下地(壁の場合:間柱・胴縁、天井の場合:野縁)の寸法、間隔について記載してください。

### (2) 加 工

現場での切断等があれば記載してください。

### (3) 取り付け

釘打ち工法、接着工法、釘打ち接着併用工法等、取り付け方法について記載してください。

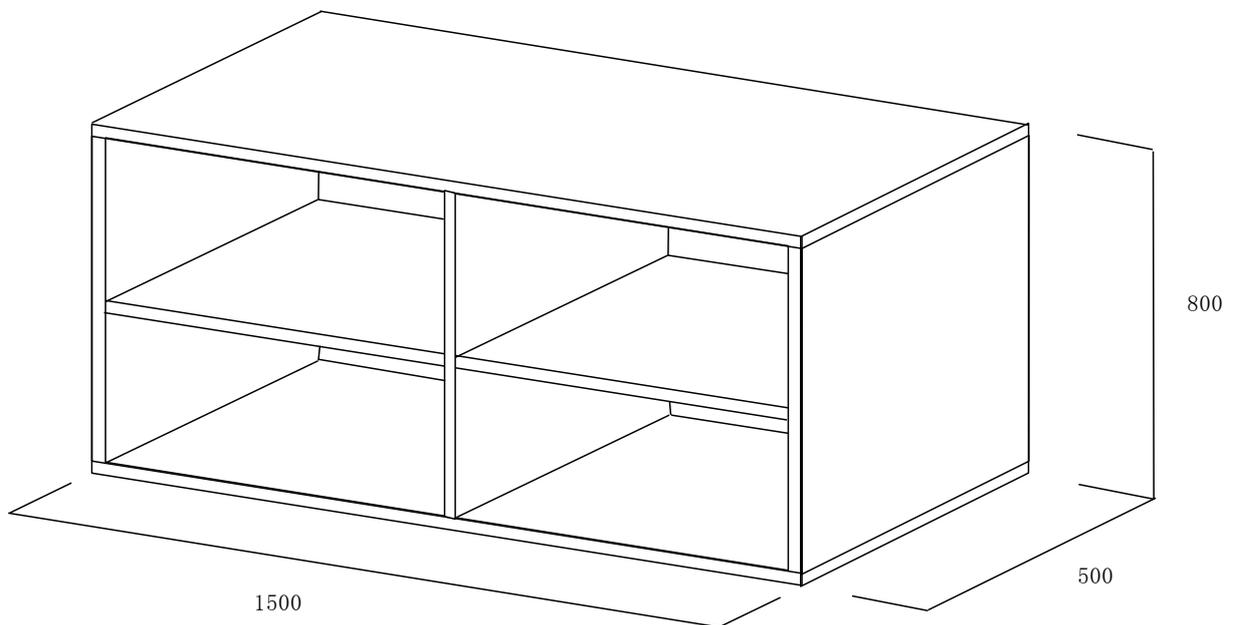
### (4) 目 地

上記取り付けの際の目地仕様を記載してください。(突き付け、目透かし、ジョイナー仕様等)

なお、当該品を建具又は襖に用いる場合には、その施工方法と併せて、その申請品が用いられる部位がわかるよう、断面図等にて示してください。

# 施工図

- ※ 施工図は、壁、天井、床等の用途毎に、斜視図等により明確にわかるよう示してください。
- ※ 施工図の記載内容は、施工方法にて記載された内容が、具体的にどのように行われるのかわかるように配慮をお願いします。
- ※ 申請仕様を建具に用いる場合には、建具のどの部分に用いられるか判別できるようにしてください。
- ※ 構成材料等の仕様・施工仕様及び施工管理中
- ※ ※図面は、鮮明なものとしてください。



# 会社の概要

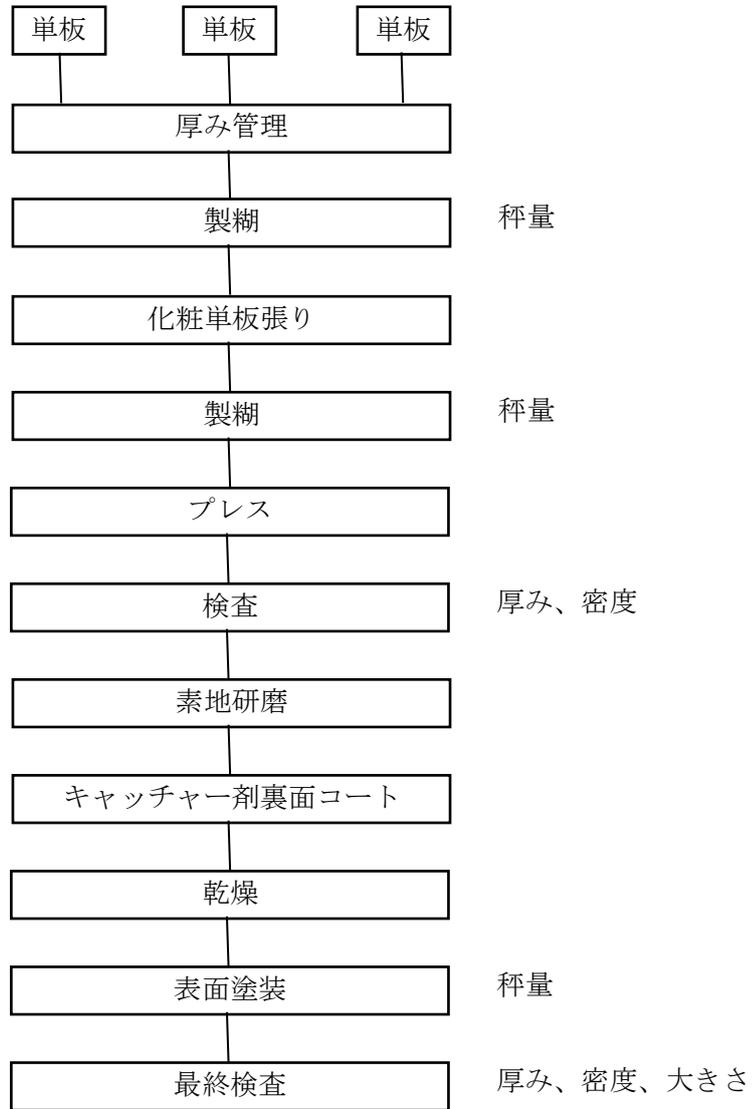
会社名	株式会社 ○×工業	本仕様の連絡先	
所在地	○○県△△市□□区 ○-△-× □ビル※階	所在地	○○県△△市□□区 ○-△-× □ビル※階
電話番号	*** (***) ****	電話番号	*** (***) ****
代表者名	紡検 太郎	部課名	○○部
設立年月日	19XX 年○月×日	担当者氏名	紡検 次郎
資本金	☆☆☆億円	従業員数	☆人
工場名	株式会社 ○×工業	建築士数 3人(一級) (その他技術者資格があれば、その名称及び人数を記載してください)	
・所在地	××工場		
・電話番号	◇◇県××市□□町☆☆ ○-△-×		
主要取引銀行 三菱東京UFJ 銀行 ◎◎支店 三井住友 銀行 ◇◇支店		建設業者登録番号	
営業・施工実績			
営業・施工実績について下記事項を記載して下さい。			
・営業の沿革			
・ISO9001の認証工場の場合には、認証年月日、認証概要を記載して下さい。			
・会社組織の概要			
・認定実績がある場合には、その認定番号と品目名、施工実績を記載して下さい。			
・主要な取り扱い品目(JIS指定品目の場合は、表示許可の有無・登録番号を明記して下さい。)			

# 会社の概要

会社名	株式会社 △□工業	本仕様の連絡先	
所在地	〇〇県△△市□□区 ○-△-× □ □ビル※階	所在地	〇〇県△△市□□区 ○-△-× □ □ビル※階
電話番号	*** (***) ****	電話番号	*** (***) ****
代表者名	紡検 太郎	部課名	〇〇部
設立年月日	19XX 年〇月×日	担当者氏名	紡検 次郎
資本金	☆☆☆億円	従業員数	☆人
工場名	株式会社 ○×工業	建築士数 3人(一級) (その他技術者資格があれば、その名称及び人数を記載してください)	
・所在地 ・電話番号	×〇工場 ◇◇県××市□□町☆☆ ○-△-×		
主要取引銀行 三菱東京UFJ 銀行 ◎◎支店 三井住友 銀行 ◇◇支店		建設業者登録番号	
<p>営業・施工実績</p> <p>営業・施工実績について下記事項を記載して下さい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・営業の沿革</li> <li>・ISO9001の認証工場の場合には、認証年月日、認証概要を記載して下さい。</li> <li>・会社組織の概要</li> <li>・認定実績がある場合には、その認定番号と品目名、施工実績を記載して下さい。</li> <li>・主要な取り扱い品目(JIS指定品目の場合は、表示許可の有無・登録番号を明記して下さい。)</li> </ul>			

# 製造方法に関する資料

製造工程フロー等により、原材料の受入、貯蔵、加工・成型、検査、保管、出荷等、原材料の受入から出荷までの流れを示してください。



# 試験体の作製に関する資料

試験体の採取等は、当機構の指示に従って行ってください。

下記様式により、試験体の作製条件について記載し、試験体の提出時に添付してください。

試験体の作製に関する資料
申請者名: 株式会社 ○×工業
申請承諾番号: JSXXXXX
試験体の製造日: 20XX年◎月◇日
試験体の採取日: 20XX年◎月□日
試験体の作製方法:
試験体の養生方法:
試験体の養生条件:
試験体の作成場所:
その他特記事項: (JIS及びJAS外品であることが確認できる資料)
試験体の作製責任者名: 紡検 次郎

## 試験体の採取について

### ① 試験体の作製

試験体は、原則として申請する材料(一般に工場製品)から採取し、試験を行う所定の大きさに作製していただきます。ただし、材料から試験体を切り出して採取することが困難な場合には、申請仕様の性能を適切に評価できるよう当機構担当者が確認をした上、材料構成等を申請仕様と同一として所定の大きさに作製することができます。

### ② 試験体の寸法及び数量

試験体の寸法は、試験方法に応じたものとなります。個々の試験体については、担当者に確認してください。

### ③ 試験体の採取

製品の製造後7日以内に行ってください。ただし、壁紙の場合には製造後直ちに採取してください。

### ④ 試験体の養生

材料の種類毎に適切な養生を行うことが必要になります。

試験体は製作後すみやかにアルミ箔で密着して包み、さらにポリエチレンの袋等により密封して、日射の当たらないできるだけ温度の安定した室内で保管の上、発送してください。

# 性能を有することを立証する試験報告書

公正中立な試験機関(国土交通省が示したリストによります)にて、JIS A 1460によるガラスデシケーター法又はJIS A 1901による小形チャンバー法の試験結果がある場合には、その試験報告書の正本を提出してください。当該試験報告書により、性能評価試験の実施をせずとも所定の性能を有することが確認できる場合には、性能評価試験を省略することができます。

試験報告書の提出の際には、試験報告書の原本に、試験報告書に記載される試験体と申請仕様が同一である旨、下記の様式により説明文書を添付してください。

## 試験報告書に関する資料

申請者名:

申請承諾番号:

試験報告書番号及び試験機関名:

試験体の採取日(製品製造後の日数):

試験体の作製方法:

試験体の養生方法:

試験体の養生条件:

試験体の組成構成等:

その他特記事項:

試験体の作製責任者名: